

令和4年度
高齢者活躍企業コンテスト

独立行政法人高齢・障害・
求職者雇用支援機構理事長表彰

優秀賞

だれもが活力を持って働ける職場環境を構築し
高齢社員の卓越した技術を次世代に継承
合同会社 Syuhari (愛知県豊橋市)

企業プロフィール

合同会社 Syuhari

(愛知県豊橋市)

- 創業 2021 (令和3)年
- 業種 縫製製造・販売(主な営業品目:注文紳士・
婦人服・ネクタイ等)
- 社員数 4人(2022年7月1日現在)
60歳以上 2人
(内 訳) 60~64歳 1人 (25.0%)
65~69歳 0人 (0%)
70歳以上 1人 (25.0%)
- 定年・継続雇用制度
定年なし。現在の最高年齢者は71歳

I 本事例のポイント

2020(令和2)年、愛知県豊橋市でコロナ対策のための医療用ガウンの縫製・販売を目的とする工房が立ち上げられた。当初は豊橋市民病院をはじめとする東三河の地域病院への販売を目的としていたが、コロナ禍の進行が著しく、大手企業の製造に対抗できず、方針を変更し、2021年2月より「お誂え高級紳士・婦人服」の製造・販売を開始した。2021年7月には「合同会社 Syuhari」として創業し、お客さまだけの一生モノの一着をつくる「匠工房」を立ち上げ、高齢社員の匠の技術と積み重ねた経験を強みに事業を展開している。

社名の Syuhari は「守破離」を表しており、基本を「守」り習得したのちに、工夫を加え既存の形を「破」り、新たな形として独立

し「離」れて自分の流派をつくる、という思いが込められている。

POINT

- 創業時から定年なしを掲げている。
- 豊橋市の「とよはしの匠」に認定されている高齢社員の縫製技術をもとに事業を展開するとともに、仕事を通じてその技術や経験を若手社員に伝承している。
- 食事休憩の終了後、午後の作業を始める前に30分間のミーティングを行い、注文服の今後の方針、つくりたい服、そのために改善すべきポイントを勉強している。

II 企業の沿革・事業内容

合同会社 Syuhari は、愛知県豊橋市で2021年7月に創業した、フルオーダーメ



会社外観

イドによる紳士服・婦人服の製造・販売事業を展開する企業である。創業の前身として立ち上げた工房では、当初はコロナ対策のための医療用ガウンの縫製・販売を行っていたが、同分野への大手企業の進出により方針を転換。社員数は少数ながら、高齢社員が持つたしかな縫製技術をもとにオーダーメイドによる紳士服・婦人服の縫製・販売に事業転換した。新規事業として、ブライダル分野の開拓や、豊橋市のふるさと納税の返礼品（フルオーダースーツ）への出品などにも積極的に取り組んでいる。

Ⅲ 高齢化の状況、職場改善等の背景と進め方

社員数4人中、60歳以上は2人で、最高年齢者は71歳である。高齢社員の縫製技術は高く、

そのうち1人は、豊橋市の事業所に従事する卓越した技能者を表彰する「とよはしの匠」に認定されている。高齢社員の持つ縫製技術が、次世代に継承されずに失われてしまうことを危惧した創業者が、高い技術を持つ高齢人材を迎え入れ設立したのが同社である。現在は、60代・70代の2人の高齢社員に、縫製職40年の経験を持つ50代の人材、見習い中の20代の人材が加わり事業を展開している。

同社は高齢社員が持つ縫製に関する技術を核に紳士・婦人服のオーダーメイド事業を展開しているため、高齢社員により長く勤めてもらうことを強く願い、高齢社員が安心して仕事に従事する職場環境を整備・拡充するための取組みを進めている。

Ⅳ 改善の内容

(1) 制度に関する改善

▼定年なし、柔軟な勤務体制

同社の雇用制度における主な特徴は、「定年の定めなし」と「柔軟な勤務体制」の2点である。「定年の定めなし」は、社員に高い意欲を持って働いてもらうために、創業当初から整備した。紳士・婦人注文服の職人の世界では、「70歳でも若手」といわれるほど高齢化が進んでおり、後継者も育っていない。衣料品の製造が海外生産にシフトして国内生産が急減し、伝統的な手

仕事を受け継ぐ人材が激減しているのが現状である。しかし、既製服が合わない人や、よりよい服を必要とする人はまだ数多く存在しており、注文服を縫製する技術は世の中で必要とされている。

注文紳士・婦人服縫製は負荷の高い肉体労働ではなく、細かな手作業（針仕事）であり、高齢であっても活力を持って働ける仕事であることから、創業時から定年年齢を定めなかった。これからも高齢社員の労働意欲を高めながら、気持ちよく活躍できる場の創出を目ざしていく方針だ。

「柔軟な勤務体制」については、勤務時間は「8時30分～17時30分」としているが、フレックスタイム勤務も可能で、所定労働時間は週20時間以上40時間以内と柔軟性を持たせている。社員の体調管理を万全とし、残業をさせないため、1日の勤務時間については3時間以上8時間以内としている。なお、1カ月の実労働時間が所定内労働時間に満たなくても賃金の減額は行わない。

(2) 意欲・能力の維持・向上のための取組み

▼技能継承の取組み

今後も同社の事業が継続できるように、50代の社員と20代の若手社員を後継者として、2人の高齢社員が持つ縫製技術の継承を図っている。各人が持つ技能を伝えながら、種々の題材の試作を楽しんで行うことで、新しい技術や細



立ち作業・座り作業の双方に対応可能な作業台といす。レイアウトは適宜変更するなど、作業しやすい環境を常に模索している

かなポイントを伝えることができ、高齢社員の方針や、雑誌を参考にデザインを最新トレンドの情報共有、試作品の創作などを行っている。各々の技術向上を図るだけでなく、技能継承のためにも、社員それぞれが持つ優れた技術を日々のミーティングのなかで確認しながら、新たな作品づくりや、注文婦人服や海外有名ブランドのスーツの分析・改良といった、互いに切磋琢磨する活動を行っており、それがモチベーションアップにつながっている。

▼コミュニケーションの促進

会社では、社員同士のコミュニケーションを通じて、風通しのよい職場風土づくりを進めている。例えば、昼休憩後の30分間ミーティング

では、リラックスした雰囲気ですぐに今後の方針や、雑誌を参考にデザインを最新トレンドの情報共有、試作品の創作などを行っている。各々の技術向上を図るだけでなく、技能継承のためにも、社員それぞれが持つ優れた技術を日々のミーティングのなかで確認しながら、新たな作品づくりや、注文婦人服や海外有名ブランドのスーツの分析・改良といった、互いに切磋琢磨する活動を行っており、それがモチベーションアップにつながっている。

同社はこうした風通しのよい職場風土を定着させ、今後、社員が増加しても、この職場風土と完全フルオーダーメイドの自社製品に誇りを持って仕事に取り組んでもらいたいと考えている。

また、技能継承のための取組みとして、職場のIT化にも取り組んでいる。匠である高齢社員の高度な技術の秘訣の見える化を進めるとともに、作業手順をマニュアル化するために、匠の緻密な手作業を作業ごとに細分化して、その画像と手順をデータ化。さらにミシンを使う際の強度やスピードデータを取り込むなど、IT化により匠の技のデータ保存や解析を計画している。

なお2022年4月から、匠の作図した型紙情報のCADシステムへの保存を、若手社員を育成して内製化し、技術の継承につなげている。



転倒防止のため、階段の両脇だけではなく上部にも手すりを設置

(3) 雇用継続のための作業環境の改善、

健康管理、安全衛生、福利厚生取組み

▼転倒防止

同社は、代表社員の2階建ての実家を改修して社屋として利用しており、社員は2階の作業場で縫製作業を行っている。一軒家のため階段が狭く、特に高齢社員はケガなどのリスクが高い。そこで、廊下の両脇および手をつく箇所の手すりを、階段には滑り止めを設置するなど、つまずき・転倒の防止に努めている。

▼照明や空調の配慮

高齢者は明るさが不足すると眼が見えにくくなるため、天井照明をLED照明に変更した。しかし細かな縫製作業では照度が不足すること

もあり、作業場にスタンド照明を合計6基増設し、天井照明の高さを下げる工夫を施した。

また、空調に関しては、大型エアコンの設置に加え、空気の循環のために扇風機と温風ヒーターを3台ずつ追加配備。さらに、コロナ禍に対応するため空気清浄機、加湿器を設置し、換気や湿度管理を徹底している。

▼作業姿勢の改善

ミシン作業用の作業台を、立ち作業が負担なくできる高さに調整し、座って作業する場合には作業する人に合わせ、見やすい高さとなる2種類のいすを各人に用意した。また、作業の効率を考慮して、匠の高齢社員がほかの3人に指導・監督しやすいように作業台を配置した。さらに、社員それぞれが作業しやすいよう、通路幅の調整なども行っている。

▼通勤負荷の軽減

同社は豊橋駅から3kmほど離れており、1時間に6本の市内循環バスが停まるバス停から約100mの位置にある。高齢社員の体力などをふまえて、自宅からバス停などの公共交通機関が不便な場合は、家族の自家用車での送り迎えによる通勤でも交通費を支給している。

▼健康管理

社員に体調不良が生じた場合は有給休暇を取得して随時対応しているほか、毎朝の作業開始時に健康確認を行っている。また、インフルエンザ予防接種やコロナワクチンの接種、副反応

などで不調をきたした日も、特別有給休暇として対応している。

日常の健康管理では、高齢社員にこまめな水分補給をうながすため、休憩室をより快適に過ごせるように整備するとともに、簡単な調理設備を追加した食事室も整えている。

(4) そのほかの取組み

同社では、社会・地域貢献のさまざまな活動を展開している。そのうちのひとつが「縫製の普及活動」で、工房と地域の公民館を利用して、縫製に興味・関心を持っている人を対象に、服の仕立て直しや簡単な補修を学んでもらう縫製教室を開催している。講師は同社の高齢社員が担当し、機械化しにくい細やかな手縫いの技や、昔の人ならだれでも習得していた「お直し」の技術などを基礎から伝授している。

また、縫製教室など普及活動への参加者のなかから同社への就職を希望する人もいる。経営状況などから残念ながら採用には至っていないが、同社のサポーター（職人）として登録してもらい、引き続き教室に通ってもらっている。今後、同社の事業が拡大し、経営業績が安定した際には登録しているサポーターの採用を視野に入れていく。

(5) 高齢社員の声

同社の事業を支える兵藤義男さん（72歳）は、高度な技能と経験を持つ文字通りの「匠」。採寸から型紙作成、仮縫い調整、中縫い調整、仕



兵藤義男さん

上げ確認、アイロン仕上げ、リメイクまですべての工程を熟知している。本人は「日々勉強です」と謙遜するが、ベストな状態で作業ができるよう、温度管理や照明確認、安全確保、過重労働の防止など、職場内のさまざまなところに気を配りながら、後継者の育成に努めている。

(6) 今後の課題

縫製の「とよはしの匠」として顕彰された高齢社員の経験を活かし、時代に対応できる技術を磨き、誇りと目標を持って継続して働ける職場環境づくりを進めている同社。今後は、職人の育成を行って人材を増強し、「匠の技術」をさまざまな人材に継承できる体制の構築を目指していくという。